

比内地鶏仕上げ期の飼料に含まれる トウモロコシは玄米により代替できる

研究目的

家畜に給与する配合飼料の主原料はそのほとんどを輸入に頼っている。自給可能な飼料用米を配合飼料原料として利用することができれば、海外の穀物事情に左右されないうえ、飼料自給率の向上につながる。

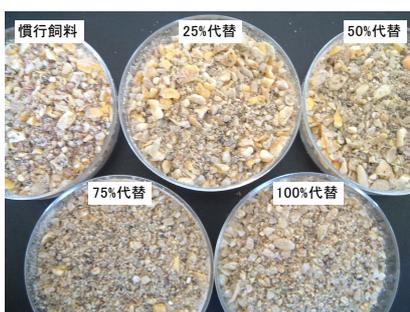
そこで、比内地鶏仕上げ期の配合飼料原料として玄米が利用できるか検討する。

研究内容

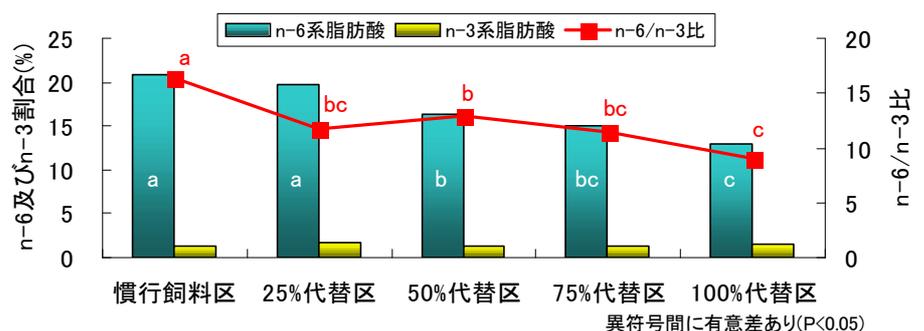
市販の配合飼料を給与する慣行区と、玄米によるトウモロコシ代替割合を25,50,75,100%になるように調整した飼料を給与する試験区を設け、発育や肉質について比較する。

研究成果

- ・発育などの飼育成績、解体歩留まり、及び肉色に玄米配合の影響は認められず、代替が可能。
- ・もも肉において、n-6系脂肪酸であるリノール酸割合が減少することにより、**n-6/n-3比**が低下し、脂肪酸組成が改善される。



供試した飼料



n-6系及びn-3系脂肪酸割合

n-6/n-3比 : n-6系多価不飽和脂肪酸とn-3系多価不飽和脂肪酸の比率。
食品から摂取する際を目安として、健康な人で4:1が望ましいとされている。



農林水産技術センター畜産試験場
大仙市神宮寺字海草沼谷地13-3

電話 0187-72-2511